

水辺の 生物



アカヒレタビラ

コイ目コイ科タナゴ亜科タナゴ属

写真提供：茨城県霞ヶ浦環境科学センター



んぼにいる平たい魚(田平・たひら)からその名がついたと言われる。

体長は6～9cm、体形はヤリタナゴ、タナゴに似ているが、体高はやや高く、側線は完全で、1対の口ひげがある。肩部の暗色斑は楕円形でやや大きく、体側の縦線は背びれの起点で消える。オスの婚姻色は緑がかり、背びれ、尻びれ、腹びれの他、尾柄部も赤くなるが、なかには桃色や白色の個体も見られる。

水草の繁った水域を好み、河川の水路等、他のタナゴより深い所までを生活の場としている。東北地方ではヤマメ等がすむ清流にもすんでいる。雑食性で動物プランクトンを好んで食べる。卵期は3～6月で、マツカサガイやドブガイ等の二枚貝に産卵する。ふ化後、約1か月で貝から仔魚が泳ぎ出し、1年で全長5～7cmに成長し9cm位まで大きくなる。

関東では、背びれと尻びれが赤くなるアカヒレタビラ、関西では背びれと尻びれが白くなるシロヒレタビラ、九州では背びれが赤く、尻びれが白いセボシタビラが主流という。

近年、河川環境の悪化で、産卵の母貝となる二枚貝の生息域が激減し、オオクチバス等の外来種の移入もあり、絶滅の危機が増大し、茨城県、秋田県、島根県等で絶滅のおそれのある種に指定されている。

取材協力：茨城県霞ヶ浦環境科学センター

参考文献：

茨城県霞ヶ浦環境科学センター・ホームページ

『日本産魚類大図鑑』益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編 東海大学出版会

これまでに紹介した「水辺の生物」のうち主なものを水資源機構ホームページに掲載しています
(トップページ右側「水辺の生物」をクリック)